

# 子ども用の動物将棋

全国 販売 紀北町産尾鷲ヒノキ

知育玩具などを販売する幻冬舎エデュケーション(東京都渋谷区)が紀北町産の尾鷲ヒノキを使った「どうぶつしょうぎ」を15日から全国の書店や玩具店で一斉に販売する。1セット350

0円。

4日に紀北町役場で、

尾鷲ヒノキを同社に勧め

た国産木材の雑貨販売・

コンサルタントグリーン

ママ(東京都大田区)川

畑理子代長(29)とヒノ

キ材を提供した海山区相

賀の植村材木店の植村一英さん(37)、森林組合おわせ職員の濱田長宏さん(41)が商品を説明した。

動物将棋は女性棋士の北尾まどかさんが考案。

ライオン、キリン、ゾウ、ニワトリを描いた4

個の駒を使い、一番強いライオンを取れば勝つ

ルール。紀北町産の尾鷲ヒノキを4枚四方で厚さ1

・5枚の駒に加工。横19枚、縦30枚で12ますの盤

には岡山県産のヒノキを使用。ガイドブック付き

で3歳児から遊べるとい

う。

川畑代長は海山区引本浦の速水林業代表速水亨

氏の二女。紀北町は7月に東京都港区との間で

「間伐材をはじめとした国産材の活用促進に關

する協定」を県内で初め

て締結。港区が進める地

球温暖化防止と二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出削減の「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」で港区に登録された建築業者が紀北町産材を使うこと

で、CO<sub>2</sub>が建築物に固定されるという仕組み。

紀北町にとって協定締結後、初めての製品となる。港区としても協定を

活用した知育玩具は初めてという。川畑代長は関東圏で尾鷲ヒノキ内装材

などの販売で、幻冬舎エデュケーションが国産ヒノキを使った動物将棋の

開発を進めていることを聞き、尾鷲ヒノキを提

案。動物将棋は平成21年に発売してこれまでに33

万セットを販売したヒット商品。これまでは中国

産材を使っており、幻冬舎エデュケーションは港

区との協定が結ばれば紀北町産ヒノキを使うこ

とを約束したという。

すでに都内の保育園、幼稚園などと5千個の手

約を取り付けており、別の5千個は15日から全国

の書店などで販売する。



尾鷲ヒノキ製の動物将棋の開発にかかわった川畑理子さん(中央)ら(4日、紀北町役場で)